



7月4日に開催された第109回日本陸上競技選手権大会の5000mに、漆畑瑠人選手が出場しました。予選3組に出走した漆畑選手は、レース中盤のペース変動に苦しめられましたが、最後まで粘り強く走り抜き、組20着でフィニッシュ。悔しさの残るレースとなりましたが、日本トップレベルの舞台で得た経験は必ず今後の力となります。秋の駅伝シーズンに向けて、再び鍛錬を重ねていきます。

トラックシーズンも無事に終え、夏の走り込み期間に入りました。夏は大阪府九尾町を中心に毎年恒例の足作りを行いました。入社2年目の九嶋恵舜選手、辻文哉選手や、ベテランの大畑和真選手などが気を吐いて走り込みました。新人の阿部陽樹選手も春先の不調を覆すように調子を上げてきており、良い雰囲気で行いました。

駅伝シーズンを納得のいく結果を残せるようチーム全員で戦う覚悟を持って練習に励みます。引き続きご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。



チームとしては13年ぶりに日本選手権5000mに出場となった漆畑選手



春先のケガから復帰した九嶋恵舜選手



ニューイヤー駅伝入賞を目標に掲げ走り込む選手達



選手コメント

九嶋 恵舜

上期前半はケガの影響で状態が上がってきませんでしたが、6月に参加した九州実業団連盟合宿で他チームの選手から刺激をもらい、夏は徐々に調子を上げることができました。

8月は昨年より距離を踏むことを意識して練習を行うことができ、自分の中でも成長を感じています。昨年、ニューイヤー駅伝でチームの力になれなかった悔しさを忘れず、まずはトラックで自己ベストを更新したいです。恵まれた環境で練習ができることに感謝し、結果で恩返しできるよう日々精進していきます！